

事務事業名	空き家バンク制度事業						事業区分	1	市民に直接サービスしている・市民生活に関わる事務事業		
								2	事業	担当部	総務部
政策名	5	豊かな風土と調和した快適な都市基盤づくり					実施計画	1	該当	担当課	企画課
施策名	25	魅力ある定住環境づくり						2	ソフト	課長名	梶島 謙治
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	外部評価		担当係	企画係	
	1	2	1	6	27			年度	担当者	野田 学	
事業期間	単年度のみ		単年度繰返			期間限定複数年度			法令根拠	柳川市空き家バンク制度実施要綱	
			( 開始 年度 ~ )			( 年度 ~ 年度 )					

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

市内全域を対象とし、市内にある空き家や空き地で、賃貸や売却を希望する所有者からの申請を受け付け、空き家バンクに登録し、さらに登録された情報を市のホームページなどで公開し、また、企画課窓口で閲覧させることなどにより当市での生活希望者に対して空き家等情報の提供を行う。

【空き家バンクの流れ】

《空き家等所有者》 空き家・空き地物件を空き家バンクへ登録 (物件登録)  
 《空き家等購入・賃貸借希望者》 希望物件等を記入の上空き家バンクへ登録 (利用者登録)  
 ⇒ 空き家等物件の詳細情報を利用者に対して提供 ⇒ 希望物件への交渉申込み ⇒ 交渉

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

<p>① 手段(主な活動、24年度実績と25年度計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登録物件(空き家・空き地)の受付</li> <li>空き家等利用希望者の登録受付</li> <li>空き家バンク登録物件への交渉申込みに対する対応</li> </ul> <p>⇒</p> <p>② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内に存在する空き家、空き地</li> </ul> <p>⇒</p> <p>③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)</p> <p>市内に存在する空き家や空き地の有効活用</p> <p>⇒</p> <p>④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内空き家の利活用による移住・定住の促進及び地域の活性化</li> </ul> <p>⇒</p>	<p>⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 物件登録された空き地</td> <td>筆</td> </tr> <tr> <td>イ 物件登録された空き家</td> <td>棟</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 登録物件への交渉申込み</td> <td>数</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 入居者等が決定した物件</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>イ 空き家等への入居者数</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 転入者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ 社会減(転入-転出)の数</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	ア 物件登録された空き地	筆	イ 物件登録された空き家	棟	名称	単位	ア 登録物件への交渉申込み	数	イ		名称	単位	ア 入居者等が決定した物件	件	イ 空き家等への入居者数	人	名称	単位	ア 転入者数	人	イ 社会減(転入-転出)の数	人
名称	単位																								
ア 物件登録された空き地	筆																								
イ 物件登録された空き家	棟																								
名称	単位																								
ア 登録物件への交渉申込み	数																								
イ																									
名称	単位																								
ア 入居者等が決定した物件	件																								
イ 空き家等への入居者数	人																								
名称	単位																								
ア 転入者数	人																								
イ 社会減(転入-転出)の数	人																								

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (目標)	26年度 (目標)	27年度 (目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円					
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0
人件費	正規職員従事人数	人			2	2	2	2
	延べ業務時間	時間			342.6	342.6	342.6	342.6
	人件費計 (B)	千円	0	0	1,370	1,370	1,370	1,370
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	1,370	1,370	1,370	1,370
活動指標	ア	筆			21			
	イ	棟			11			
対象指標	ア	数			3	3	5	5
	イ							
成果指標	ア	件			1	2	3	3
	イ	人			4	7	10	10
上位成果指標	ア	人			1,729	1,750	1,770	1,800
	イ	人			-302	-280	-260	-240

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
<b>① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？</b>	
近年、都市部においては、多様化するライフスタイルや価値観の変化から、田舎暮らしなどによるスローライフが見直され、都会から農漁山村で生活したいと考える人が増えているといわれている。また、「団塊の世代」の退職によるUターン増加が見込まれるなど、大都市から地方への移住に繋がる人の流れの素地が出来つつある。一方、地方においては、高齢化や後継者不足による耕作放棄地や空き家の増加に加え、農山村部においては、著しい人口減少の影響などにより、将来のコミュニティ機能維持の目処がつかない「限界集落」の問題が深刻化している。本市においても、少子高齢化の影響などにより人口減少が進み、今後、空き家の増加が見込まれることから、これらの有効活用を図り、市内への移住・定住を促進し、併せて地域の活性化を図ることを目的に、この制度を創設するもの。	
<b>② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？</b>	
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると人口シミュレーションによると本市の2040年(平成50年)の将来人口は49,921人、高齢化率38.5%、年少人口率9.8%と更なる人口減少と超高齢化社会の到来が予測されている。人口減少は、市民活力の低下や、税収の減少、消費の縮小など財政面、地域コミュニティの存続にまで係る深刻な問題であるため、これらの取り組みを通じて、人口減少をいかに緩和させていくか、本市に課せられた大きな課題である。	
<b>③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？</b>	
市議会の一般質問等において、本市の人口減少対策についての質問がたびたび出されている。また、「第1次柳川市総合計画」の平成28年度目標人口71,000人の達成が今後求められる。	

**2 評価の部(CHECK) ※原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

評価項目		評価	理由	見直し余地
目的 妥当性	政策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 間接的に結びついている <input type="checkbox"/> 結びついていない	施策として「魅力ある定住環境づくり」が、重点プロジェクトとして「住みよいまちづくりプロジェクト」が掲げられており、体系に結びついている。	無
	公共性	<input checked="" type="checkbox"/> 税金を使って達成すべき事業ですか？ <input type="checkbox"/> 行政で実施すべき <input type="checkbox"/> 一部民間でも実施できる <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき	急激な人口減少は、市の将来を危うくする大きな課題であり、行政が主導して推進する必要がある。	
有効性	成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がない <input checked="" type="checkbox"/> ある程度の向上余地がある <input type="checkbox"/> 大きな向上余地がある	市内外に居住する空き家利用希望者に対していかに周知を図っていくかが今後の課題。	有
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 事務事業を中断した場合、市民生活に影響がありますか？ <input type="checkbox"/> 大きく影響する <input type="checkbox"/> ある程度の影響がある <input type="checkbox"/> 影響はあまりない	急激な人口減少は行政運営のみでなく地域コミュニティの維持も困難にする問題であり、定住施策の推進は必要不可欠	
	代替性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に目的・手段が類似している事務事業はないですか？ <input type="checkbox"/> 類似事業はない <input type="checkbox"/> 類似事業はあるが統合できない <input type="checkbox"/> 類似事業があり統合できる	ターゲットを絞った事業であり、類似事業はない。	
効率性	現状の成果を落とさずにコストを削減できませんか？	<input type="checkbox"/> コスト削減できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> コストが増加する	事業に関する予算はなく、費用もほとんどかかっていないことからこれ以上のコスト削減は難しい。	無
公平性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある	市内への定住希望者に対する支援策であり、公平である。	無

**3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)**

(1) 全体総括(振り返り、反省点、前年度からの改善点など)	(2) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方の改革・改善 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持		○		低下		
		コスト																
		削減	維持	増加														
成果	向上維持		○															
	低下																	
30件を超える物件登録があるなど空き家等所有者に対する周知は十分に図れたが、利用者登録は市内在住者が中心であり、市外への周知が不十分だった。	(3) 具体的な改革・改善案																	
	空き家バンク制度のPRを強化し、登録物件数及び利用登録者数を増加させることで、バンク内での取引を活性化させる。																	

**※参考～前年度評価結果(新規事業の場合は未記入)**

(1) 事業の方向性	(2) 改革改善案	(3) 期待成果
<input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	#REF!	#REF!

**(5) 解決すべき課題(壁)とその解決策(ない場合はその理由)**

空き家バンクへの問合せは、空き家所有者及び空き家利用希望者いずれからも寄せられており、ニーズが見込まれる状況。ただし、所有者と利用者のマッチングが上手くいっていない状況にあるため、その部分の改善が必要。

**4 外部評価・事務事業2次評価希望について**

(1) 外部評価 (2) 事務事業2次評価

有無	理由	有無	理由
----	----	----	----